

令和5年度 地域福祉活動支援事業 ホームページ用報告書

神奈川県社協ホームページに掲載しますので、助成事業の概要を簡潔に記入してください。

※必要事項を記入または☑ 1ページ以内に収まるよう作成

|       |   |   |   |
|-------|---|---|---|
| 団体名   | 社会福祉法人 南足柄市社会福祉協議会  |   |   |
| 団体の属性 | <input type="checkbox"/> セルフヘルプグループ・当事者等  |   | <input type="checkbox"/> ボランティアグループ等                          |
|       | <input checked="" type="checkbox"/> 市町村社協やそれを構成員とする実行委員会等   |   |   |
| 助成区分  | <input type="checkbox"/> 一般助成   | <input checked="" type="checkbox"/> 協働モデル助成 | 協働モデル助成<br>社会福祉法人の協働による「地域のおひとり様の暮らしを支える身元保証と終活支援」<br>本会提示テーマ |
| 助成事業名 | 地域住民、関係機関・団体の福祉意識の醸成を基盤とし、幅広い世代の社会参加促進に係る先駆的な活動。  |   |   |
| 事業の目的 | 1. アンカーサポート相談及びアンカーサポート事業（モデル事業）の実施<br>2. 関連団体との連携によるエンディングノート配布  |   |   |
| 事業概要  | <p>1. アンカーサポート事業</p> <p>少子高齢化や地縁・血縁のつながりが希薄になっている情勢を踏まえ、身寄りのない方を支える地域資源として令和3年度より「アンカーサポート事業」の運営を行っています。内容は、月1回の定期的な見守りを行う基本サービスに加え、契約時に一定の預託金をいただき、入院中の金銭管理や事務手続き、貴重品などの預かりを行う「入院入所時支援サービス」、入院や入所となった場合の身元保証人になる「保証サービス」、葬儀や残された荷物の片づけ、様々な手続きを担う「死後事務手続きサービス」という大きな3つのサービスから成り立っています。</p> <p>2. エンディングノート配布</p> <p>「わたしのしおり」と題した、南足柄市社協オリジナルのエンディングノートを作成し、3年間で2,200部を発行しました。仕様は、2穴リングファイルに、片面カラー印刷の用紙を綴じるタイプにし、必要に応じてページを加えたり、書き換えができるようになっています。また市外の方も活用できるように、本会のホームページからの無料ダウンロードができる仕組みもつくりました。R5年からはパソコンで入力したいという要望に応じ、Word版の提供も開始しました。</p>  |   |   |
| 成果や課題 | <p>【成果】</p> <p>1. アンカーサポート事業では、R5年度は2件、3年間で計6名の方と契約を行いました（入院入所時/保証サービス2名、死後事務2名、両方1名）。毎月の見守りの他、遺言書の作成支援や、実際に入院された方へは入院退院時の事務手続など対応を行ってきました。1名は判断能力の低下から、成年後見制度へ引き継ぎを行い、ご本人の状態に応じた制度への連携もスムーズに行うことができました。また死後事務手続のみのご契約の方は、実際に入院を経験されたことから、サービスの必要性を痛感し、入院入所時手続サービス利用の検討も始めています。契約者の皆さんにとって大きな安心感を持っていただいているようです。また県社協との協働で行うことにより、多くの関係機関との視察研修、情報提供などを通じ、事業運営のノウハウを得ることができました。</p> <p>2. エンディングノート配布事業では、R5年度では10か所、3年間では27か所の地域に「書き方講座」として出前講座を実施し、延べ491名の地域の方にエンディングノートを活用しながら「終活」について周知を行うことができました。また民生委員、関係機関を通じて配布をし、エンディングノートをきっかけに終活に関心をもち、アンカーサポートの利用や、他の制度へつながったケースもあります。「しおりを見て、やるべきことが多いことに気づいた」「初めて聞く話が多かったが、聞いてみてすこし気が楽になった」等の声がきかれました。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ご相談に来られた方のうち、資産が多額、判断能力が十分でない、預託金を預けられる余裕がない等、契約に結び付かなかったケースもありました。本事業に代わる社会資源やないことや、金銭的な負担を少なくサービスを提供できる仕組みが必要です。</li> <li>・出前講座を通じて、住民の方の多くは、老後について漠然と不安を持たれている一方で、終活について相談できる窓口が少ないという課題も見えてきました。</li> <li>・契約期間が“お亡くなりになるまで”という長期にわたるため、預託金の確実な管理等、事業の安定的な運営と、緊急時にもすぐ対応できる事務局内の職員体制の維持が必要です。</li> </ul> |   |   |
| 今後の展望 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後は住民が活用しやすい、終活全般についての相談に対応できる、「終活相談窓口」の設置を検討します。</li> <li>・アンカーサポート事業では、まだ介護を必要としていない方や施設関係者等、この事業を必要としている方へより周知できるように出前講座等を通じて、周知に努めていきます。現在の契約者への対応を維持しつつ、新規契約者の申込も受け付けます。</li> <li>・エンディングノート配布事業は今後も継続して配布します。</li> <li>・近隣市町とともに取り組めるように、情報提供や視察を受入れ、事業立ち上げに協力をしていきます。</li> </ul>   |   |   |

活動の様子が  
分かる画像  
2枚程度添付

